

認知症に関する映画会 & 介護者交流会

僕がジョンと呼ばれるまで

介護施設に暮らす認知症のおばあちゃん。
彼女の「チャレンジ」が、私たちの不安を、
「希望」に変えてくれます。



人生を輝かせる「JOHN」は
彼女が教えてくれた

実施日 11月11日(土)

①映画会 13:00~14:30

②介護者交流会 15:00~15:30

会場 いろは遊学館 3階 ホール・第2研修室

対象

①どなたでも(定員100人)

②市内在住で、介護保険の要支援・要介護認定を
受けた方を在宅介護している介護者(定員24人)

参加費 無料

※要事前申込み(先着順)

※全席自由 字幕・手話通訳付き



申込み 志木市社会福祉協議会

TEL:474-6508 FAX:475-0014

申込み締切

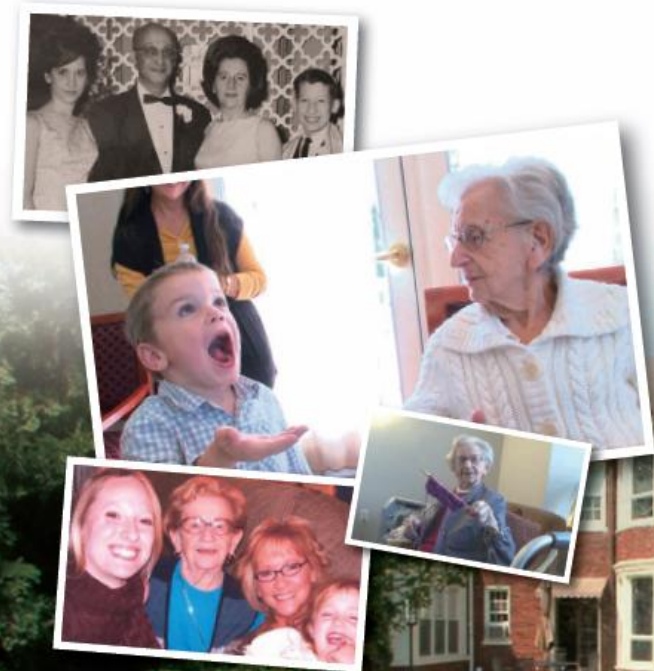
11月9日(木)

老いること、それは誰も避けることのできない人生の季節。
肩の荷を下ろすように、少しずつ過去のことを忘れていくのは自然なことです。
しかし、たとえば認知症。いまだに根本的な治療法はなく、
突然のことに本人も家族も戸惑います。
私たちは、この難しい病とどうつき合っていけば良いのでしょうか？
どうしたら人生の最後の季節を自分らしく生きることが出来るのでしょうか？

平均年齢80歳以上のアメリカ・オハイオ州にある高齢者介護施設。ここに暮らす多くの方が認知症です。スタッフのジョンは施設で暮らすおじいちゃんおばあちゃんに毎日たずねます。「僕の名前を知っていますか？」でも、答えはいつも「いいえ」。何度名前を伝えても覚えていません。そんな彼女たちが挑戦したある取り組み^{*}が、彼女たちの毎日を変えていきます。それはスタッフと一緒に、読み書きや簡単な計算などを行うことで認知症の改善を目指すというもの。



エブリン(93歳)は認知症と診断されて2年。自分の名前も書けず、ジョンとの会話も噛み合いませんでした。しかし彼女にも大きな変化が表れます。趣味の編み物を再びはじめ、笑顔でジョンに話しかけるようになりました。そして、かつてお得意だった辛辣なジョークまで復活したのです。そのことは、ジョンやスタッフ、そして家族をも笑顔に変えました。この物語に登場する人たちの笑顔が、私たち誰もが抱える不安を希望に変えるヒントになるはずです。



★
「脳トレ」ブームの立役者である東北大学・川島隆太教授と、公文教育研究会、介護現場の協力によって生まれた認知症改善プログラム「学習療法」のこと。認知機能が衰えはじめた高齢者とスタッフが、対面でコミュニケーションを取りながら、簡単な「読み」「書き」「計算」を行うもので、現在、日本国内で1万人以上が実践しています。

www.bokujohn.jp  facebook.com/bokujohn

○映画概要

プロデューサー：太田茂 監督：風間直美／太田茂 構成：武田浩／ロジャー・パルバース 撮影：松本克巳 取材：水野潤
スペシャルサポーター：株式会社公文教育研究会／株式会社エーゼット／株式会社カーブスジャパン／株式会社ジェー・シー・アイ／セコム株式会社 後援：日本赤十字社／公益財団法人さわやか福祉財団／公益財団法人日本認知症グループホーム協会／財団法人健康・生きがい開発財団／社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 技術協力：コスモ・スペースオブアメリカ 制作協力：共同テレビジョン 製作・配給：仙台放送 配給協力：東風 82分 ドキュメンタリー ©2013 仙台放送

共 催 志木市社会福祉協議会・志木介護する人を支える会
後 援 志木市